

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立石浜橋場こども園
所在地	台東区橋場1-35-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な環境に関わり探究する幼児(地域となかよしプロジェクト)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

- ・地域の文化に触れる体験を通し、感性を豊かにするとともに、自ら遊びの中に取り入れ再現しようとして、より詳しく調べようとして、自分たちの住む地域への興味・関心を深めてほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

5月から6月 地域の祭り・行事等をより深く知る。(実体験、講師の話、絵本等)
6月 講師を招聘したお茶会 地域散策(おばけ地蔵見学) 8月 盆踊りの会
9月 講師を招聘したお話の会 地域散策 1月 凧作り 花やしき遠足
通年 近隣の老人ホームとの交流

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 地域の祭りや行事などへの興味関心を深められるように
・「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちもてる環境や神輿や屋台、花やしきなど、地域で経験したことを試行錯誤しながら遊びの中で再現できるような様々な材料、場の工夫や提示
- 様々な人とのかかわりを通して
・園に招聘たり園外に出向いたりして、地域の方や講師などと定期的に関われる機会の設定

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- 地域の祭りや行事などへの興味関心を深められるように
・地域の祭の後に自分たちでも「おみこしを作ろう！」と自分たちなりに友達と話し合い、様々な材料や遊具を選び、工夫しながら再現した。
 - ・夏に盆踊り会を開催し、近隣小学校の太鼓クラブの方や、地元の方に台東音頭などを教えていただき、一緒に盆踊りを楽しんだ。
 - ・お茶会では地域の先生にご協力いただき、お茶を点てている様子を見たり、抹茶や和菓子を味わったりした。
- 【今年度新しい取組】**
- 本園で取り組んでいる「地域となかよしプロジェクト」の一環として
・近隣の老人ホームとの年間を通じた交流

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

○年長児の子供たちの「本物らしくしたい」という思いを実現できるよう、保育者は必要な援助を行った。出来上がった神輿を担ぎ、満足そうに園内を回る姿が見られた。その姿を見た年少児が、自分たちなりに考え、身近なものを見立ててお囃子の演奏を行っていた。

○盆踊りの会では、太鼓の大きな音に驚きつつも、小学生の掛け声やたたく姿に憧れのまなざしを向けていた。

○今年度、「地域ともっとつながりたい」と考え、近隣の老人ホームと定期的に交流することにした。最初は自分の祖父母より高齢で、杖や車いすを使われている方に戸惑う姿があった。交流の回数を重ねるうちに、「おじいちゃん・おばちゃんのところにもまた行きたいね」と楽しみにする姿や、年長児が交流から帰って来た様子を見て、自分たちも行きたいと担任に伝える年中児の姿があった。また、おじいちゃんおばあちゃんに何をしたら喜ぶだろうと考え、楽器の演奏を聴かせたり、七夕飾りやクリスマスのリースを届けたりした。

<活動の様子>

【小学生による太鼓の演奏】



【お祭りごっこ】



【近隣の老人ホームとの交流】



年長児が神輿を担いでいる横で、年少児が広告を丸めた棒を持ってお囃子の演奏している

5. 振り返り

- 今年度より、近隣老人ホームとの定期的交流を始めた。子供たちにとってもホームの方にも利点があり、互恵性のある交流となるように進めてきている。まだまだ始めたばかりのため、乳児の交流の仕方など課題も多い。行事の参観や遊びの中での交流など無理のない内容で進めるようにし、長期的に交流を続けていけるようにしていきたい。
- 石浜橋場こども園は、地域の教育資源が多い。「やってみたい」「もっと知りたい」「どうしたら喜んでもらえるだろう」など、地域に愛着を感じ積極的に関わろうとする子供たちを育てるために、本物に出合う体験や地域の教育資源の取入れ方を工夫していった。

以上